

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-----|---------|-------------|-------|------|
| 授業科目 | 事例研究（障がい者福祉） Case Study (Disability Welfare) | | | 担当教員 | ヴィラーグ ヴィクトル | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2単位 | 開講年次・時期 | 1・2年／後期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | |
| <p>「障がい」をキーワードに、多様な生活課題を抱える人びとの人権尊重の視点に沿ったソーシャルワーク理論の修得を目指す。自己及びウェルビーイング実現に向けての支援及び社会デザイン力の向上を図るために、「障がい」を社会・文化的に捉え、後期はhuman diversity（人間の多様性）の一要素としての「障がい」に対応した文化的な力量アプローチの基本原則を中心に学ぶ。</p> <p>なお、社会福祉の高度な専門的な知識、技術の修得を促すために、外書講読の学修法を中心とし、英語で専門的な文書を読む力を高める。その中で、世界、とりわけイギリスの障がい者福祉に対する理解を深める。</p> | | | | | | | |
| 観点 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 関心・意欲 ・態度 | 障がい者の人権尊重の専門的な価値と倫理を応用できる。 | | | | ディスカッション | 10% | |
| | 定期的な学修で高度な専門力を目指す意欲と姿勢を維持できる。 | | | | 取り組み | 20% | |
| 思考・判断 | 「障がい」について社会・文化的なモデルで把握できる。 | | | | 課題レポート | 10% | |
| 技能・表現 | 「障がい」に関する理論に基づいた実践原則を応用できる。 | | | | 課題レポート | 10% | |
| | 「障がい」について構造的な働きかけを考案できる。 | | | | 課題レポート | 10% | |
| 知識・理解 | 「障がい」に関するソーシャルワーク理論を修得できる。 | | | | ディスカッション | 10% | |
| | 「障がい」に関する専門的な英文章を理解できる。 | | | | 輪読報告 | 30% | |
| 出席 | | | | | | | 受験要件 |
| 合計 | | | | | | | 100% |
| 評価基準および評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| <p>「取り組み」(20%)は文献講読などの定期的な宿題と積極的な授業参加、「輪読報告」(30%)は分担する文献の発表、「ディスカッション」(20%)は授業内の発言内容と貢献度、「課題レポート」(30%)は『自身の「障がい」に対応できる文化的な力量及びその向上』に関する報告を評価対象とする。</p> | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>授業の展開は英語文献の輪読を主要な手法とする。文化的な力量に関するアメリカの専門書を基に、多様性要素としての「障がい」に対応するソーシャルワークについて取り上げる。</p> <p>扱うテーマは、アメリカにおける「障がい」の定義と人口データ、文化的な力量の考え方、文化的な障がい観、障がい者の歴史的な抑圧と現代的な社会問題、倫理的なジレンマと自己覚知、専門的な知識体系、専門的なスキル、当事者の理解、社会的及び経済的正義、事例検討を含む。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：Lum, D. (Ed.) (2011) <i>Culturally Competent Practice: A Framework for Understanding Diverse Groups and Justice Issues (4th ed.)</i>, Brooks/Cole Cengage Learning.</p> <p>参考書：ヴィラーグ ヴィクトル (2018)『多様性時代のソーシャルワーク』中央法規.</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>各自の準備不足は授業進行とディスカッション、即ち受講生相互の学修を妨げる要因になりやすい。それを避けるために、指定文献は発表を担当する以外にも毎回必ず読んで、知らない単語を辞書で調べて参加すること。原則、欠席、遅刻、退室、早退などを認めない。学修や参加について困難を感じる場合、個別に事前相談を受ける。</p> <p>メディアなどの社会における「障がい」の語られ方や障がい者が置かれている社会的な地位に対する感受性を持ち、授業と関連付けて、時事問題や日常生活の出来事にアンテナを張ること。</p> | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|---------------|--|---|
| 1 | オリエンテーション | 問題関心を共有し、進め方を調整・決定する。 | 予：履修動機の整理 復：シラバスの熟読 |
| 2 | 「障がい」の定義と人口構造 | アメリカにおける「障がい」の捉え方と人口データを把握する。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の現状との比較 |
| 3 | 文化的な力量の考え方① | 「障がい」に対応できる文化的な力量の枠組みを理解する（前半）。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：学んだ専門用語の暗記と新しい理論的な概念の整理 |
| 4 | 文化的な力量の考え方② | 「障がい」に対応できる文化的な力量の枠組みを理解する（後半）。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：学んだ専門用語の暗記と新しい理論的な概念の整理 |
| 5 | 「障がい」と文化的な価値観 | 文化に影響される「障がい」の捉え方について考える。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：日本文化における障がい観の検討 |
| 6 | 歴史的な抑圧と現代的な課題 | アメリカを中心に「障がい」に対する負の遺産と現在の社会問題について整理する。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の抑圧の歴史の調査 |
| 7 | 倫理的なジレンマと自己覚知 | 「障がい」に関する専門的な価値と倫理、また個人の意識について検討する。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：自身の障がい観の整理 |
| 8 | 専門的な知識体系 | 「障がい」に対応できる専門的な知識修得についての理解を深める。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：必要な知識修得計画の策定 |
| 9 | 専門的なスキル | 「障がい」に対応できる介入方法を体系的に理解する。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の実施可能性の検討 |
| 10 | 当事者の理解 | 当事者に対する専門的な態度を確認する。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：自身の態度の整理 |
| 11 | 社会的及び経済的正義 | 「障がい」を巡る構造的な問題解決について考える。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の格差の調査 |
| 12 | 事例検討 | 関連事例について文化的な力量アプローチに沿って検討する。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の事例との比較 |
| 13 | まとめ | 文化的な力量アプローチについて全体総括をする。 | 予：英文献の講読と辞書の参照 復：自身の実践との照合 |
| 14 | 課題レポート① | 自身の「障がい」に対する文化的な力量の現状と向上策について発表する。 | 予：課題レポートの作成 復：全体のふりかえりと疑問点の整理 |
| 15 | 課題レポート② | 自身の「障がい」に対する文化的な力量の現状と向上策について発表する。 | 予：課題レポートの作成 復：全体のふりかえりと疑問点の整理 |